

■11月4日

那覇空港、新国際線旅客ターミナル、施設使用料導入、大人1,000円、子供500円

那覇空港ビルディング(NABCO)は1日、2014年に利用開始の新国際線旅客ターミナルビルに旅客取り扱い施設利用料を導入すると発表した。ターミナルビル開所日の来年2月17日から実施する。

施設利用料はターミナルビルから出発する旅客に対し、税込みで大人(満12歳以上)は1人当たり千円、子ども(満2歳以上満12歳未満)は同500円を徴収する。旅行者は航空券を購入する際、航空運賃に含めて支払うことになる。

現在国際線ターミナルに乗り入れているのは、中国国際航空や中華航空など、中国、台湾、香港、韓国の航空会社。また、ピーチ・アビエーションが暫定的に利用しているが、新ターミナルへの乗り入れは検討中だという。APJが国内線で利用しているLCCターミナルへ国際線を移転した場合は、今回認可された利用料は徴収されない。

因みに、現在同利用料を導入している羽田空港国際線は税込みで大人1人当たり2千円、子ども千円。福岡空港国際線は大人945円、子ども472円。

(琉球新報)11/2

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-214704-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-214704-storytopic-4.html>)

(aviationwire)11/2

<http://www.aviationwire.jp/archives/28037> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/28037>)

(国交省プレスリリース)11/1

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku05_hh_000055.html (->

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku05_hh_000055.html)

バニラ・エア(LCC)、航空券販売初日、アクセス数1秒間-最大8000越

バニラ・エアは2日、1日から航空券の販売を開始したが、同社のインターネットサイトに1日正午から2日午前0時までの間に大量のアクセスが集中し、サーバーの処理容量を超えたため、一時サイトの閲覧や航空券の予約が難しくなると発表した。

アクセス数は1秒間に最大で8000を超え、国内だけでなく、台湾など海外からも多かったという。尚現在は、サーバーの増設や回線の増強を行った結果、現在は正常に予約などができるとしている。

(読売新聞)11/2

<http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/news/20131102-OYT1T00754.htm> (->

<http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/news/20131102-OYT1T00754.htm>)

スカイウイングス・アジア・エアラインズ、日本-シムリアップ、チャーター便12本計画

カンボジアのスカイウイングス・アジア・エアラインズは、2014年2月から3月にかけて、日本発のカンボジア・シムリアップチャーターを12本計画中だ。同社が日本に就航するのは今回が初めて。このほどGSA契約をステラ・ジャパンと締結した。トラベルビジョンが報じた。

チャーターは2月発が7本、3月発が5本で、すべて3泊5日の旅程。関西地区以西は往復ともに直行便として運航するが、東日本などについては、給油のため台北経由を予定。現在、新潟や山形、福島、広島、岡山などの旅行会社と話を進めており、今後も地方発がメインになる見込みだ。関空発や九州発についても、旅行会社にアプローチを続けていくという。

使用機材はエアバスA320-231型機(エコノミークラス178席)。ZAは現在A320-231型機を2機保有しており、11月にA320型機を1機、12月にA319型機を1機受領する予定。3月以降のチャーターにはA319型機を投入する計画だ。

(トラベルビジョン)11/3

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59388> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59388>)

全日空、国際線、機内インターネットサービス開始延期

(Aviationwireによると)

全日空は今年夏から開始予定だった、国際線での機内インターネット接続サービスの開始時期を延期した。早くても来春の開始となる見込み。

全日空が採用したネット接続サービスは、エアバスなどが出資するオンエア社の「インターネットオンエア」。衛星回線を使用するシステムで、ANAが接続環境を試験したところ、乗客が満足できる水準に達していないという。

現在接続環境の向上に向けた対応を進めており、サービス開始の目途が立ち次第、利用者に案内する予定。昨年6月に発表した時点では、今年から2年ほどかけて、19機のボーイング777-300ER型機と9機の767-300ERの計28機にネット接続環境を整備するとしている。

(Aviationwire)11/3

<http://www.aviationwire.jp/archives/28050> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/28050>)

ガルーダ・インドネシア航空、1-9月期は赤字

(NNA ASIAによると)

国営ガルーダ航空が発表した2013年1～9月期連結決算は、最終損益が2,204万米ドル(約21億5,900万円)の赤字だった。ルピアの対米ドル安の影響で営業費用が拡大したことが響いた。

売上高は12.6%増の26億8,699万米ドル。このうち、定期便が10.6%増の23億5,531万米ドル、臨時便が48.6%増の8,999万米ドル、その他が23.1%増の2億4,169万米ドルだった。

営業費用は16%増の26億6,488万米ドル。ルピア安の影響で燃料費や整備費のほか、人件費、運航コスト、販促費用などが軒並み拡大した。

1日付ジャカルタ・グローブによると、ガルーダは路線新設と旅客機の調達により輸送力を増強することで、収益の拡大を図る。

(NNA ASIA)11/2

<http://news.nna.jp/free/news/20131104idr001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131104idr001A.html>)